

- 平成25年4月より、難病等が障害者総合支援法の対象となったが、法施行時には、新たな難病対策の結論が得られていなかったため、当面の措置として、障害福祉サービス等の対象となる難病等の範囲を「難病患者等居宅生活支援事業」の対象疾病と同じ範囲(130疾病)としていた。

【障害者総合支援法における難病の定義 第4条抜粋】

治療方法が確立していない疾病その他の特殊の疾病であって政令で定めるものによる障害の程度が厚生労働大臣が定める程度である者。

- 難病の患者に対する医療等に関する法律および児童福祉法の一部改正法(平成27年1月1日施行)が成立したことに伴う指定難病及び小児慢性特定疾病の対象疾病の検討を踏まえ、障害者総合支援法の対象となる難病等の範囲を検討するため、「障害者総合支援法対象疾病検討会」を設置(H26.8.27)して検討を行っている。
- 10月6日開催の第2回検討会において、障害者総合支援法の対象疾病の要件及び第1次疾病が取りまとめられた。

障害者総合支援法対象疾病検討会 構成員名簿

	飯野 ゆき子	自治医科大学総合医学第Ⅱ講座主任教授
	大澤 真木子	東京女子医科大学名誉教授
	丹野 久美	横浜市健康福祉局障害福祉部障害福祉課課長補佐
	千葉 勉	京都大学大学院医学研究科消化器内科学講座教授
	寺島 彰	浦和大学総合福祉学部教授
	直江 知樹	国立病院機構名古屋医療センター院長
	中島 八十一	国立障害者リハビリテーションセンター学院長
◎	中村 耕三	国立障害者リハビリテーションセンター総長
	錦織 千佳子	神戸大学大学院医学研究科内科系講座皮膚科学分野教授
○	平野 方紹	立教大学コミュニティ福祉学部福祉学科教授
	水澤 英洋	独立行政法人国立精神・神経医療研究センター病院長
	宮坂 信之	東京医科歯科大学名誉教授
	和田 隆志	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科教授

◎座長 ○座長代理

(50音順、敬称略)

障害者総合支援法対象疾病検討会における検討スケジュール

H26.7

「障害者総合支援法対象疾病検討会」の立ち上げ

障害者部会

【第1回】

- 関係団体ヒアリング
 - ・ 一般社団法人 日本難病・疾病団体協議会（JPA）
 - ・ 認定NPO法人 難病のこども支援全国ネットワーク
- 検討の進め方 等

【第2回】

- 障害者総合支援法の対象となる難病等の考え方（要件等）
- 対象疾病（第1次実施分）

H26秋

第1次疾病(案)

障害者部会

政令改正

H27.1(予定)

第1次疾病の実施

【第3回～】

- 対象疾病（第2次実施分）

第2次疾病(案)

障害者部会

H27夏～秋目処

第2次疾病の実施

障害者総合支援法対象疾病検討会における検討結果

(1) 障害者総合支援法の対象疾病の要件

指定難病の基準を踏まえつつ、福祉的見地より、障害者総合支援法の対象となる難病等要件等を検討。

※ 他の施策体系が樹立している疾病を除く

指定難病の要件	障害者総合支援法における取扱い
① 発病の機構が明らかでない	<u>要件としない</u>
② 治療方法が確立していない	要件とする
③ 患者数が人口の0.1%程度に達しない	<u>要件としない</u>
④ 長期の療養を必要とするもの	要件とする
⑤ 診断に関し客観的な指標による一定の基準が定まっていること	要件とする

(2) 障害者総合支援法の対象となる疾病(別紙参照)

○ 第1次対象疾病 130疾病⇒153疾病に拡大

※ 疾病名については今後変更の可能性あり

○ 現行の障害130疾病のうち、指定難病の対象外となる3疾病の取り扱い

スモン	<u>対象</u>	「発病の機構が明らか」であるが「長期の療養を必要とする」
劇症肝炎	<u>対象外</u> [※]	「長期の療養を必要としない」
重症急性膵炎		


※ ただし、経過措置を設け、すでに障害福祉サービスの対象となっていた方は継続利用可能とする

○ 障害者総合支援法の対象疾病については、指定難病における「重症度分類等」は適用しない

※ 医療費助成の対象患者は、指定難病の患者であって症状の程度が重症度分類等で一定以上の者、もしくは高額な医療を継続することが必要な者となっている

※ 障害者総合支援法においては、現行の130疾病と同様、特定の疾病名に該当すれば、障害福祉サービスを利用するための「障害支援区分」の認定を受けることが可能

1	IgA腎症	40	硬化性萎縮性苔癬	79	脊髄性筋萎縮症	118	バーシャー病
2	亜急性硬化性全脳炎	41	好酸球形筋膜炎	80	全身型若年性特発性関節炎	119	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症
3	アジソン病	42	好酸球形消化管疾患	81	全身性エリテマトーデス	120	肺動脈性肺高血圧症
4	アミロイド症	43	後縦靭帯骨化症	82	先端巨大症	121	肺胞低換気症候群
5	アレルギー性肉芽腫性血管炎	44	拘束型心筋症	83	先天性QT延長症候群	122	バッド・キアリ症候群
6	ウェグナー肉芽腫症	45	広範脊柱管狭窄症	84	先天性魚鱗癬様紅皮症	123	ハンチントン病
7	ウルリッヒ病	46	高プロラクチン血症	85	先天性筋無力症候群	124	汎発性特発性骨増殖症
8	HTLV-1 関連脊髄症	47	抗リン脂質抗体症候群	86	先天性副腎低形成症	125	肥大型心筋症
9	ADH不適合分泌症候群	48	コステロ症候群	87	先天性副腎皮質酵素欠損症	126	ビタミンD依存症二型
10	遠位型ミオパチー	49	骨髄異形成症候群	88	側頭動脈炎	127	非典型溶血性尿毒症症候群
11	黄色靭帯骨化症	50	骨髄線維症	89	大動脈炎症候群	128	皮膚筋炎
12	潰瘍性大腸炎	51	ゴナドトロピン分泌過剰症	90	大脳皮質基底核変性症	129	びまん性汎細気管支炎
13	下垂体前葉機能低下症	52	混合性結合組織病	91	多系統萎縮症	130	肥満低換気症候群
14	加齢性黄斑変性症	53	再生不良性貧血	92	多巣性運動ニューロパチー	131	表皮水疱症
15	肝外門脈閉塞症	54	再発性多発軟骨炎	93	多発筋炎	132	フィッシャー症候群
16	関節リウマチ	55	サルコイドーシス	94	多発性硬化症	133	封入体筋炎
17	肝内結石症	56	シェーグレン症候群	95	多発性嚢胞腎	134	ブラウ症候群
18	偽性低アルドステロン症	57	CFC症候群	96	遅発性内リンパ水腫	135	プリオン病
19	偽性副甲状腺機能低下症	58	色素性乾皮症	97	チャーシ症候群	136	ベスレムミオパチー
20	球脊髄性筋萎縮症	59	自己貪食空胞性ミオパチー	98	中枢性尿崩症	137	ベーチェット病
21	急速進行性糸球体腎炎	60	自己免疫性肝炎	99	中毒性表皮壊死症	138	ペルオキシソーム病
22	強皮症	61	自己免疫性溶血性貧血	100	腸管神経節細胞減少症	139	発作性夜間ヘモグロビン尿症
23	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	62	視神経症	101	TSH産生下垂体腺腫	140	慢性炎症性脱髄性多発神経炎
24	ギラン・バレー症候群	63	若年性肺気腫	102	TSH受容体異常症	141	慢性血栓栓栓性肺高血圧症
25	筋萎縮性側索硬化症	64	シャルコー・マリー・トゥース病	103	TNF受容体関連周期性症候群	142	慢性腭炎
26	クッシング病	65	重症筋無力症	104	天疱瘡	143	慢性特発性偽性腸閉塞症
27	グルココルチコイド抵抗症	66	シュワルツ・ヤンペル症候群	105	特発性拡張型心筋症	144	ミトコンドリア病
28	クリオピリン関連周期熱症候群	67	神経性過食症	106	特発性間質性肺炎	145	メニエール病
29	クドウ・深瀬症候群	68	神経性食欲不振症	107	特発性基底核石灰化症	146	網膜色素変性症
30	クローン病	69	神経線維腫症	108	特発性血小板減少性紫斑病	147	もやもや病
31	結節性硬化症	70	進行性核上性麻痺	109	特発性血栓症	148	有棘赤血球舞踏病
32	結節性動脈周囲炎	71	進行性骨化性線維形成異常症	110	特発性大腿骨頭壊死	149	ランゲルハンス細胞組織球症
33	血栓性血小板減少性紫斑病	72	進行性多巣性白質脳症	111	特発性門脈圧亢進症	150	リソソーム病
34	原発性アルドステロン症	73	スティーヴンス・ジョンソン症候群	112	特発性両側性感音難聴	151	リンパ管筋腫症
35	原発性硬化性胆管炎	74	スモン	113	突発性難聴	152	ルビンシュタイン・テイビ症候群
36	原発性高脂血症	75	正常圧水頭症	114	難治性ネフローゼ症候群	153	レフェトフ症候群
37	原発性側索硬化症	76	成人スチル病	115	膿疱性乾癬		
38	原発性胆汁性肝硬変	77	脊髄空洞症	116	嚢胞性線維症		
39	原発性免疫不全症候群	78	脊髄小脳変性症	117	パーキンソン病		

 新たに対象となる疾病

※疾病名については今後変更の可能性あり